Project	地域協働専攻　地域政策グループ
B08	**道南地域くらし応援プロジェクト**
メンバー	［学　　生］　佐藤文音　滝澤一輝　谷内結香子　石川ゆい　渋木陽介　豊川遥介　柳橋海理 ［担当教員］　畠山大　藤井麻由

【背景】
ミニコミ誌「MIMIZ」の発行を通じて、地域における学生や若者とミドル・シニアとの交流・協働を活性化し、ひいては、若者の地域における就業・起業・定住を促進することに貢献する。

【目的】
①現場に密着して地域を見る、②物事を掘り下げて見る、③「土」（＝地域）を作り、地域の「土」となる人材を育成する、④自分たち自身が地域にとって有為な人材となることを目指す、⑤いつも前向きである。

【概要】
函館の中で、特に雑誌の記事として取り上げるべきものを大学生の視点で探し、それを記事にして多くの人に読んでいただくことで函館地域の活性化への貢献を目指す。

【プロセスと成果】
前期は電子版（第10号準備号）の発行を目標に活動を行った。雑誌編集が未経験だったメンバーも多かったため、はじめに山岡先生に新聞記事の作り方を教えて頂き、さらに、地プロ内のメンバー同士で紹介しあう記事を作成した。こうした準備により、テーマの設定方法や文章の書き方、デザインを学んだため、自分たちの雑誌を作るためのテーマの設定、取材先の決定、取材、そして記事作成はスムーズに進めることができた。しかし、Slackによる情報共有や対面の話し合いの場面での消極的な姿勢が目立ち、一部のメンバーに負担が偏るという問題があった。第10号準備号の発行後、Googleフォームでのアンケートを行ったが、届いた回答が少なく、後期の第10号記念号の発行に向けて、雑誌の知名度向上の必要性を実感した。
後期は、第10号記念号の紙版と電子版の発行を目標とした。まずは、雑誌の知名度の向上に向けて、函教祭にMIMIZとして初めて参加した。これをきっかけにMIMIZという雑誌をよりたくさんの人に知っていただくことができた。また、この函教祭の活動を通して、メンバー同士の仲も深まり、その後の活動をスムーズに進めることができ、前期に見られた話し合いの場面での消極的な姿勢が改善された。また、これまでは記事作成は個人個人の作業であったが、新たな取り組みとして、3つのグループに分けて、グループ毎にテーマを決めて記事の作成を行った。これによって、一つのテーマをさらに深く掘り下げることが可能になったが、一人一人の作業量が見にくくなるという問題も生じた。最終成果物として、第10号記念号を発行することができた。現在は電子版のみが公開されているが、紙版も3月には発行される予定である。

【総括と反省・今後の課題】

MIMIZの発行までのプロセス（企画や構成の立案、取材先へのアポ取り、実際に取材に行って記事を書くという一連の活動）を通して、自分たちが興味のあることを掘り下げていくことで、普段何気なく生活していたら気づかなかったかもしれない様々な地域の活動に触れることができ、また、地域の方々と交流を持つことができた。さらにその内容を記事にまとめることで、大学生の視点から発信することができた。この雑誌の発行を通じて、大学生の視点でとらえた地域の新たな一面を知ってもらい、興味を持ってもらえるような内容になっていると考える。

反省点としては、日程調整がうまくいかなかったことが挙げられる。もともとある程度余裕をもったスケジュールにはしていたものの、取材先との連絡や記事作成の段階でうまくいかず、締め切りがどんどん先延ばしになってしまった結果、当初の予定より遅れてしまうということがあった。また、後期は3グループに分けての活動が主になったが、その分、他のグループが何をしているかというのが見えづらく、連絡・共有の徹底ができていなかった。雑誌作りではどうしても個人の作業が多くなってしまい、1つの雑誌を全員で作り上げるという意識が低くなっていたことが原因だと考える。もう一つ反省点を挙げるとするならば、広報活動が不十分であったことだろう。函教祭時にフライヤー配布を含めたPR活動はできていたが、日頃からInstagramやX（旧Twitter）を活用しきれていなかったのではないかと感じる。

以上の反省点を踏まえ、今後は、スケジュール管理とメンバー間の情報共有の徹底、そして、広報活動を積極的に行っていくことが挙げられる。広報活動をより積極的に行うことで、読者数の向上、アンケートの回答数の増加が見込めるのではないかと考える。

＜謝辞＞

今回のMIMIZ第10号記念号を発行するにあたりご協力していただいた多くの方々、雑誌を読んでいただいた多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【地域からの評価】

第10号準備号を発行した際のGoogleフォームのアンケートでは、各々の記事で選んだテーマが面白い、読み応えがある等、たくさんの感想をいただき、おかげさまで好評だった。

成果発表会の際に、いただいたコメントで、私たちが作った雑誌が独自の視点を提供できているのだと感じた。

1号あたり300～500ほどの閲覧数があり、私たちが作った雑誌の影響力を感じるとともに、たくさんの地域の方が読んでくださっていることに深い喜びと感謝を感じた。

【その他】

年間スケジュール

■前期

第1回「オリエンテーション」
第2～4回「雑誌編集の練習」
第3回「第10号準備号全体についての討議」
第4回「各記事の企画案決定」
第5回「ゲストスピーカーによる特別講話」
第6～12回「取材、記事作成、函教祭について討議」
第13回「中間報告会の準備」
第14回「最終原稿完成」

■後期

第1回「第10号記念号全体についての討議、函教祭についての確認」
第2回「討議及び、函教祭当日の確認」
第3回「タイトル・サブタイトルの決定、各記事案について討議、取材開始」
第4～11回「進捗状況の報告、広報活動の確認」
第12回「記事完成、デザイン等の確認、校正」
第13回「公開に関する最終確認」
第14回「最終原稿完成、成果発表会の準備」